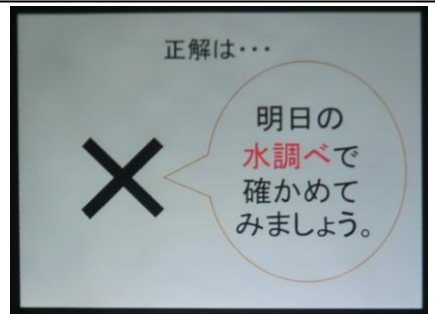


# かきくけ航海日誌

滋賀県立びわ湖フローティングスクール  
〒520-0047 大津市浜大津5丁目1番7号  
<http://www.uminoko.jp/>



かきくけ航海〇×クイズ

「みずうみに学んで 世界の明日をみる」

「かきくけ航海」を生み出そう！

合言葉 か・・・考える き・・・気づく く・・・工夫する  
け・・・継続する こ・・・行動する

## 「不思議を感じる感性」

【所長 新庄 正幸】



「一つ不思議」を子どもの心に植え付けていく。私たちが授業の中でし続けなければならないことだと思っています。「？」(はてな)があつてこそ、子どもは動き始めます。目にするもの、耳にするもの一つひとつに心ふるわせ「なぜだろう」と心をふくらませます。様々な「不思議」をいつも追いかけて、その謎解きに心わくわくし続けるには、「わかりたい。」とか「ぜひ調べてみたい。」とか「なんとかなりそうだ。」という願い、意欲、見通し

が心に蓄えられていることが必要になります。座学だけでなく、家の人に聞いたり、地域(びわ湖)に出かけたりして、「なるほどそうだったのか。」とか「こんな方法でもわかるんだな。」という実感を伴った理解や納得をさせなければと常々思っています。

湖の子たちも、「地元の川の水はなんであんなにきたないのか？その水が流れる南湖はそんなにきたないのかがふしぎに思いました。」や「水調べで色々なことが分かったけど、一つだけ不思議なことがありました。それは、白石の水はきれいですが、ほかの水と混ざることはないのか？どうか？ということです。」このような思いを持ちます。(左上写真)

心理学者の河合隼雄氏が「謎とき大好き」というエッセーで次のように述べています。

人間にとって『わかる』『納得がいく』ということは大切だ。ところが、人間はぜいたくにできている。すべてのことがわかると面白くない。退屈してくる。何かわけのわからぬことや不思議なことがあると、それを解明するのに挑戦したくなる。そこに期待や希望などが生まれ、心が揺れる。そして、謎がとけたとなると一層うれしい。何か新しい世界が開けたと感じる。謎がとけてしまつてなくなると困るのだが、自然の方も心得ていて、つぎつぎと謎を提出してくれる。

人間の「学びの心の動き」を的確に言いあてていのではないのでしょうか。河合先生自身がそういう学びを続けてきたから、手にとるように分かるのでしょうか。不思議を感じる感性を育みたいのです。

### かきくけコーナー

「湖の子」のタペの最初に、「湖の子かきくけ航海〇×クイズ」をされた航海がありました。びわ湖の広さや深さのこと・「うみのこ」のこと・1日目に展望した島のこと等。そして、2日目のびわ湖環境学習に関わるプランクトン固有種のこと・水調べのことをクイズにして、2日目の学習への意欲づけをされていました。学校紹介はしおりに記載して、それもクイズ形式で学校間の交流を図られました。タペの時間だけでなく、2日目もすき間の時間を使って答え合わせをしたり、びわ湖環境学習が深まったりしていました。(右上写真)